

目を開いて下さい

シリーズ～預言者の声～

2022/6/5

ペンテコステ礼拝

列王記下6章8～23節

アラムの王がイスラエルと戦っていた時のことである。王は家臣を集めて協議し、「これこれのところに陣を張ろう」と言った。しかし、神の人はイスラエルの王のもとに人を遣わし、「その場所を通らないように注意せよ。アラム軍がそこに下って来ている」と言わせた。イスラエルの王は神の人が知らせたところに人を送った。エリシャが警告したので、王はそこを警戒するようになった。これは一度や二度のことではなかった。アラムの王の心はこの事によって荒れ狂い、家臣たちを呼んで、「我々の中のだれがイスラエルの王と通じているのか、わたしに告げなさい」と言った。家臣の一人が答えた。「だれも通じていません。わが主君、王よ、イスラエルには預言者エリシャがいて、あなたが寝室で話す言葉までイスラエルの王に知らせているのです。」

アラムの王は言った。「行って、彼がどこにいるのか、見て来るのだ。わたしは彼を捕らえに人を送る。」こうして王に、「彼は**ドタン**にいる」という知らせがもたらされた。王は、軍馬、戦車、それに大軍をそこに差し向けた。彼らは夜中に到着し、その町を包囲した。神の人の召し使いが朝早く起きて外に出てみると、軍馬や戦車を持った軍隊が町を包囲していた。従者は言った。「ああ、御主人よ、どうすればいいのですか。」するとエリシャは、「恐れてはならない。わたしたちと共にいる者の方が、彼らと共にいる者より多い」と言って、主に祈り、「主よ、彼の目を開いて見えるようにしてください」と願った。主が従者の目を開かれたので、彼は火の馬と戦車がエリシャを囲んで山に満ちているのを見た。アラム軍が攻め下って来たので、エリシャが主に祈って、「この異邦の民を打って目をくらましてください」と言うと、主はエリシャの言葉どおり彼らを打って目をくらまされた。

エリシャは彼らに、「これはあなたたちの行く道ではない。これはあなたたちの求める町ではない。わたしについて来なさい。あなたたちの捜している人のところへわたしが連れて行ってあげよう」と言って、彼らをサマリアに連れて行った。彼らがサマリアに着くと、エリシャは、「主よ、彼らの目を開いて見えるようにしてください」と言った。主が彼らの目を開かれ、彼らは見えるようになったが、見たのは自分たちがサマリアの真ん中にいるということであった。イスラエルの王は彼らを見て、エリシャに、「わたしの父よ、わたしが打ち殺しましょうか、打ち殺しましょうか」と言ったが、エリシャは答えた。「打ち殺してはならない。あなたは捕虜とした者を剣と弓で打ち殺すのか。彼らにパンと水を与えて食事をさせ、彼らの主君のもとに行かせなさい。」そこで王は彼らのために大宴会を催した。彼らは食べて飲んだ後、自分たちの主君のもとに帰って行った。アラムの部隊は二度とイスラエルの地に来なかった。



エリヤはツァレファテに身を隠し、やもめの息子を生き返らせた。

バアッシュの治世中、北イスラエルの町々は、南ユダの王アサと連合したダマスコの王に襲撃された。

イスラエルとユダの王国

B.C. 925~842頃

Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N. Y.



アラム

ドタン

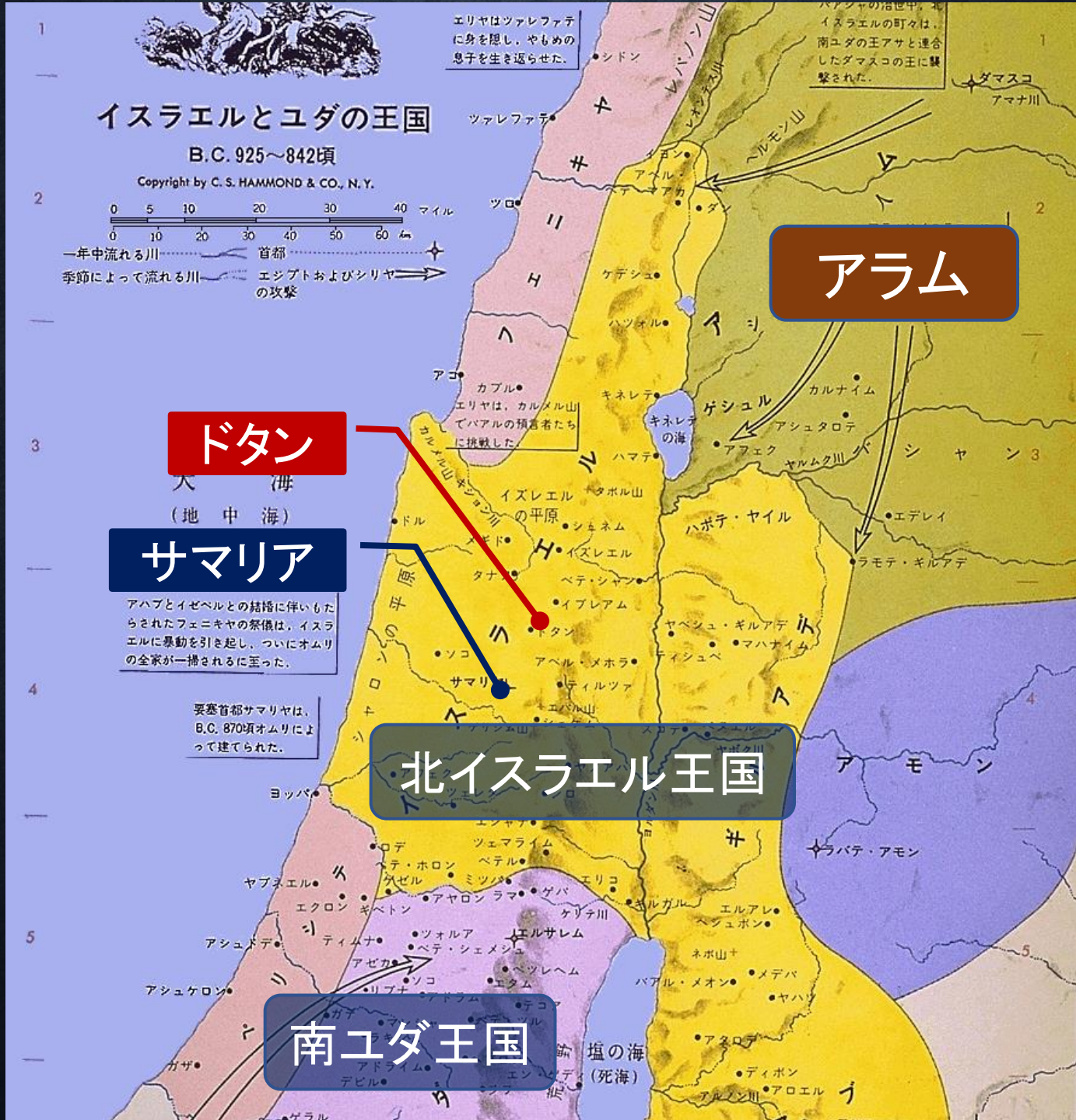
サマリヤ

アハブとイゼベルとの結婚に伴いもたらされたフェニキヤの祭儀は、イスラエルに暴動を引き起し、ついにオムリに全家が一掃されるに至った。

要塞首都サマリヤは、B.C. 870頃オムリによって建てられた。

北イスラエル王国

南ユダ王国



北イスラエル王国 対 アラム

- アラム(王国)について
 - 現在のシリアの辺り
 - イスラエルの北からメソポタミア付近まで
 - ユダヤ人のパレスチナ入植から長い関わり
- 北イスラエル王国との戦い
 - アハブ王の時、アラムが攻め込む(上20章)
 - 南北連合軍でアラムに攻め込む(上22章)
 - 司令官ナアマンの重い皮膚病が癒される
 - アラムが攻め込み、サマリアを包囲するも、主の助けにより追い払う(下6, 7章)
 - 南北連合軍がラモト・ギレアドで戦う(8章)

困っていたアラムの王

- 奇襲攻撃をしかける場所がばれている
 - アラムが北イスラエル王国の町を攻撃しようとする
 - 神の人(エリシャ)がイスラエルの王に場所を告げる
 - 王はその町に軍を送り守りを固める
- 家臣を疑うアラムの王
 - このようなことが何度も続いたので、アラムの王は荒れ狂い、家臣に「我々の中のだれがイスラエルの王と通じているのか、わたしに告げなさい」と言った
- 原因は預言者エリシャだと家臣が告げる
 - 「だれも通じていません。わが主君、王よ、イスラエルには預言者エリシャがいて、あなたが寝室で話す言葉までイスラエルの王に知らせているのです。」

大軍を送ったアラムの王

- エリシャの居場所を探させる
 - 「行って、彼がどこにいるのか、見て来るのだ。わたしは彼を捕らえに人を送る。」
- ドタン(サマリアの北20km)にいる
 - 「こうして王に、『彼はドタンにいる』という知らせがもたらされた。」
- 大軍を差し向けるアラムの王
 - 「王は、軍馬、戦車、それに大軍をそこに差し向けた。彼らは夜中に到着し、その町を包囲した。」

満ちていた主の軍勢

- 大軍に包囲されていた
 - 「召し使いが朝早く起きて外に出てみると、軍馬や戦車を持った軍隊が町を包囲していた」
- 驚き恐れる召し使い
 - 従者は言った。「ああ、御主人よ、どうすればいいのですか。」
- エリシャは主に祈った
 - 主に祈り、「主よ、彼の目を開いて見えるようにしてください」と願った
 - すると「彼は火の馬と戦車がエリシャを囲んで山に満ちているのを見た。」

もてなされたアラム軍

- 目が見えなくなったアラム軍
 - エリシャが主に祈って、「この異邦の民を打って目をくらましてください」
- サマリアに連れて行かれたアラム軍
 - 「わたしについて来なさい。あなたたちの捜している人のところへわたしが連れて行ってあげよう」と言って、彼らをサマリアに連れて行った。
- アラム軍のための大宴会
 - イスラエルの王はアラム軍を打ち殺そうかと言った
 - しかしエリシャは彼らに食事を与えて帰らせろと言った
 - 「王は彼らのために大宴会を催した」

もてなされたアラム軍

- 目が見えなくなったアラム軍
 - エリシャが主に祈って、「この異邦の民を打って目をくらましてください」
- サマリアに連れて行かれたアラム軍
 - 「見えるのも見えないのも主のなさること」
- アラム軍のための大宴会
 - イスラエルの王はアラム軍を
 - しかしエリシャは彼らに食事を与えて帰すと言った
 - 「王は彼らのために大宴会を催した」

アラムの部隊は二度とイスラエルの地に来なかった

なぜこの箇所をペンテコステの日の 礼拝説教に選んだのか

- 今、日本の教会は瀕死の状態にある
 - 信徒の減少・高齢化・教職不足・経済的問題・日曜学校の閉鎖・教会が生まれない…
- 日本基督教団の「2030年問題」
 - 2030年には教会員の3分の2が75歳を超える
 - おそらく半分以上の教会が成り立たなくなる
- まさに「軍馬や戦車を持った軍隊が町を包囲している」
 - 「ああ、御主人よ、どうすればいいのですか。」

目を開いて下さい！

- 教会の誕生日（ペンテコステの日）
 - 120人ほどの普通の人たちが集まって祈っていた
 - そこに聖霊が降り、彼らは知らない国の言葉で話し出し、それを聞いた人々が集まってきた
 - 教会は聖霊によって生み出された！
- 主は必ず救いを備えておられる
 - 「主よ、**私**の目を開いて見えるようにしてください」
 - 主の軍勢が山に満ちているのが見えるはず
 - 現実に目を奪われて恐れるのではなく、主の御業を期待して祈ろう！



目を開いて下さい